

## ～ 協 議 会 次 第 ～

時 間：午後3時～午後5時

会 場：3F「モナコ」

司 会 神奈川県歯科医師会 専務理事 関 泰忠

1. 開 会 神奈川県歯科医師会 副会長 西野 一紘

2. 挨 拶  
神奈川県歯科医師会 会 長 高橋 紀樹  
神奈川県医師会 会 長 大久保吉修  
神奈川県薬剤師会 会 長 加藤 昇一

3. 出席者紹介

4. 次回当番師会の決定

5. 座長選出

6. 協 議

協議テーマ「医療連携、特に糖尿病について」

①神奈川県歯科医師会：「歯科からの糖尿病対策について」

発言者／神奈川県歯科医師会 理 事 大矢 享

②神奈川県医師会：「医科から見た歯周病 ー糖尿病連携を含めてー」

発言者／神奈川県医師会 理 事 羽鳥 裕

③神奈川県薬剤師会：「糖尿病薬をめぐる話題」

発言者／神奈川県薬剤師会 常務理事 高橋 洋一

7. 情報交換

①神奈川県歯科医師会：「地域医療再生計画に対する三師会の取り組みについて」

発言者／神奈川県歯科医師会 常務理事 鴨志田義功

②神奈川県薬剤師会：「多重受診患者に係る対応について」

発言者／神奈川県薬剤師会 副会長 嶋 元

8. 閉 会

# 平成 22 年度 神奈川県三師会役員連絡協議会

## 協議テーマ及び発言要旨

団体名 神奈川県医師会

### 【テーマ題目】

医科から見た歯周病 - 糖尿病連携を含めて -

### 【テーマ要旨】

糖尿病は、3大死因の心筋梗塞、脳卒中の主要な基礎疾患となるばかりでなく、第1位のがんとも関与が深いことが示されている。平成20年度の第5次医療法改訂で4大疾病5事業のひとつに取り上げられ国の重点施策である。実際、厚生労働省の「健康日本21」によれば、2010年の糖尿病有病者は約1080万人と推計され、同じく「平成19年度国民健康・栄養調査報告（平成22年3月）」によれば「糖尿病が強く疑われる人」と「糖尿病の可能性を否定できない人」の合計は約2210万人となっている。

2型糖尿病では飽食の時代の反映といえるが、日本人はインスリン分泌能がもともと低いため、僅かな肥満増加が容易に糖尿病になる。医科臨床の現場では糖尿病患者はさまざまな科で激増しており、すべての科の医療人が熟知することが必要となった。平成20年度から増加する医療費縮減を目的に導入されたメタボ健診の特定健診・特定保健指導は、高血圧、脂質異常、肥満を含む耐糖能障害の減少を目指すものであるが、国民や医療者から見れば偏った健診であり国民の望む健診からは程遠い。

糖尿病関連の医療連携は、他科連携のための糖尿病手帳、眼科との糖尿病眼手帳、CKDを含む糖尿病性腎症、さらに糖尿病性神経症、フットケアなども連携の工夫がある。

特に歯科との連携では、歯周病は糖尿病第6の合併症とされ、糖尿病があると歯周病の頻度は増加する。単に歯周病菌増加が増悪させるだけでなく、喫煙、TNF- $\alpha$ などサイトカインが増悪因子とされている。また一方で、歯周病があると糖尿病になりやすいことも証明され、歯周病の改善でインスリン抵抗性が改善する。糖尿病協会に5000人ももの歯科医師が入会するなど糖尿病対策の高まりが今後の医療発展に期待される。

国民の健康づくりのため、特に糖尿病対策について積極的に取り組む必要があるとの認識から、日本医師会は日本糖尿病学会、日本糖尿病協会と共に平成17年2月に「日本糖尿病対策推進会議」を設立した。会議の設立目的は①かかりつけ医機

能の充実と病診連携の推進、②受診勧奨と事後指導の充実、③糖尿病治療成績の向上、である。

神奈川県医師会でも、日本糖尿病学会神奈川県支部、神奈川県糖尿病協会、神奈川県内科医学会を構成団体とし、神奈川県歯科医師会、神奈川県薬剤師会などに協力団体としてご参加頂き、平成 21 年 1 月に「神奈川県糖尿病対策推進会議」を設立した。(規約、活動方針は資料のとおり)

現在推進会議は、糖尿病デーにおける講演会、ライトアップの開催などを中心に活動しているが、「神奈川県保健医療計画」で糖尿病の地域連携クリティカルパスを、24 年度までに二次保健医療圏全てに導入することを目標としていることから、活動方針に掲げた各課題について、県歯科医師会、県薬剤師会と連携を取りながら糖尿病の発症予防、早期発見、早期治療、合併症の予防など、引き続き糖尿病対策のより一層の推進を図って参りたい。

本日は、各地域で展開している連携を紹介いたします。

《MEMO》